京都教区時報

https ://www.kyoto-catholic.net/

カトリック京都司教区
広報委員会
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

2023年　司教年頭書簡
コロナ時代を生きる信仰Ⅲ
「わたしのシノダリティを創ろう」
を受けて

第6回　一致を生きるとはどういうこと？

わたしのシノダリティを考えた時、すぐに浮かんだことは中学時代の体験だった。幼児洗礼を受けていた私にとって教会に行くことは当たり前だった。ある日の放課後、友達がお寺に祈りに行くのを聞き、思わず、「どうして？」と聞いてしまった。「あなたも教会に行くでしょう」との答えが返ってきた。その時、「そうなんだ！」とごく自然に仏教徒である友達を受け止め、今も心に深く刻まれていることだ。一人ひとりが自分の信じている神に祈ることは、当たり前なんだとわかった瞬間だった。

この体験から、信仰の自由だけでなく、様々な違いを受け止めることに向き合うようになった。思想、表現、行動の違い、また感じ方や生き方の違いもある。さらに年を重ねるに従って、今までとは違うものが必要となってくる。話す声の大きさとスピード、歩く速度、身支度に時間がかかること等、それも違いの一つだと思う。

大塚司教の年頭書簡の7には、『人類共通の普遍的な価値（正義、平和、平等、自由）のために協働することで、互いの一致を目指します』とあるが、その前提には様々な違いを受けとめるための葛藤があり、互いに重荷を負っていく過程がある。そして、すべてを赦される神の愛に生かされていることへ辿り着くとき、感謝に満たされて気づくことがある。それは、違いに留まるのではなく、共通の価値である人のいのちを大切にし、守り、平和のために働くために自分を開くことであり、そうなるように願うことによって導かれていくのだと思う。イエスは「願いなさい。そうすれば与えられる」と絶えず呼びかけている。

現在私は15人ほどの高齢の姉妹達と生活している。その半数は90歳を超えている。姉妹たちは一線を退いた後、身体的、精神的に思うように動けなくなっていくことを受け入れながら、日々を生きている。その姿に寄り添いながら、恵みとしていただいている復活され生きておられる主イエスへの信仰のうちに、主が望まれている平和の実現のために、単純な生活を通して感謝と賛美の祈りを捧げ続けている。新たな力と光を受けながら。

ヌヴェール愛徳修道会　シスター二宮昌子

司教年頭書簡は
こちらから→

7
2023

2022年度 カトリック京都司教区本部 決算報告

平素より京都司教区のために、ご支援ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
昨年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大でいろいろな教会活動が滞り、皆様もご苦労なさったことと思います。
さて、2022年度（2022年１月１日から12月31日まで）の、京都司教区の宗教法人本部会計の決算について、主な点をご報告させていただきます。

教区本部会計について

2022年度の決算は、収益計724,796千円、費用計627,766千円でした。2021年度報告までは司教区が納める法人税額はお知らせしておりませんでしたが、2022年度より「税抜前当期正味財産増減額」「法人税額」「税抜後当期正味財産増減額」をお知らせいたします。
「税抜前当期正味財産増減額」は97,030千円「法人税額」は57,744千円で、差引「税抜後当期正味財産増減額」は39,286千円のプラスとなりました。なお費用のうち200,000千円は将来の福音宣教活動のために、福音宣教基金とさせていただきます。

１．収益について
①小教区からの納付金は（A）～（D）は総額で95,034千円でした。2021年度より4,494千円の減収です。これは、2022年度はブロック宣教司牧協力者のシスター方の給与分（納付金Ｂ）を小教区に請求しなかったためです。
②収益事業損益は、河原町教会敷地内ホテル再建設に係る土地借地権者からの地代等をいただき、またその他の収益も含め税金等を差引し、246,083千円でした。

２．費用について
①神学生養成費は通常の負担の他、神学生２名の経費を計上しております。
②人件費は2021年度に比べ、4,808千円の増額です。本部職員を４月から１名、11月から１名増員したことが要因です。

終わりに

2022年度の収益は黒字決算となっておりますが、経常収支は大幅な赤字であり、地代収入によって補填しております。今後、新カトリック会館、司教館、衣笠墓苑の河川改修等で大きな出費が見込まれます。皆様のご協力を今後ともよろしくお願いいたします。
コロナ禍はようやく終息の兆しが見え始めましたが、世界の平和はまだ脅かされ続けており、不安定な状況が続いています。このように多くの人々のいのちが危機に晒されている状況の中にあって、わたしたちがどのように福音宣教の使命を果たしていくことができるのか、それぞれの生活の場で考えていかなければならないときだと痛感しております。今までの内向きな、体制護持というエゴイズムからわたしたちが脱皮し、新しい福音宣教、新しい価値観、新しいいのちの世界を見出していきたいと思います。今後とも、皆様のお祈りをよろしくお願いいたします。

2023年７月１日
カトリック京都司教区
本部事務局長　北村善朗

2022年度　カトリック京都司教区本部　決算報告書

自2022年１月１日　至2022年12月31日

（単位：千円）

科　目	実　績	科　目	実　績
Ⅰ経常費用	266,370	Ⅰ経常収益	152,418
1 福音宣教活動費	42,732	1 司牧祭儀収入	8,088
祭儀費	435	司教司牧納付金	2,503
教育養成費	3,286	司祭司牧納付金	5,585
神学生養成費	8,121	2 納付金収入	95,034
諸委員会活動費	569	小教区納付金（A）	24,552
教区事業活動費	29,344	小教区納付金（B）	59,337
諸活動団体補助金	350	小教区納付金（C）	10,174
アジア交流費	0	小教区納付金（D）	971
済州交流費	150	3 福音宣教協力金	2,530
国際交流費	300	4 特定献金収入	6,418
会議費	91	5 福音企画室収入	0
図書費	32	6 墓地収入	12,528
諸会費	54	墓地使用料収入	4,300
2 寄付金支出	310	墓地祭儀収入	7,786
3 特定献金支出	6,418	（神の園）使用料収入	442
4 管理費	130,307	7 特別勘定収入	11,379
人件費	94,149	一粒会	9,958
維持管理費	12,602	アジア基金	435
事務管理費	23,556	済州基金	564
5 福音宣教企画室支出	210	一万匹の蟻	0
6 墓地勘定支出	6,386	国際協力基金	422
墓苑管理・整備費	6,333	8 その他の収入	16,441
（神の園）管理祭儀費	53	建設分担金収入	7,875
7 減価償却費	80,007	一般寄付金収入	6,919
		雑収入	1,647
Ⅱ経常外費用	1,725	Ⅱ経常外収益	166,624
固定資産売却損	1,725	固定資産売却益	116,275
固定資産除去費	0	投資有価証券売却益	0
特別積立金繰入	0	墓地積立金取崩益	0
投資有価証券償還損	0	受取利息	50,349
雑損失	0		
Ⅲ福音宣教基金繰入	200,000	Ⅲ収益事業収入	405,754
Ⅳ収益事業費用	159,671		
費　用　合　計	627,766	収　益　合　計	724,796
税抜前当期正味財産増減額	97,030		
合　計	724,796	合　計	724,796
法人税額	57,744		
税抜後当期正味財産増減額	39,286		

聖パウロ三木顕彰碑の改修

はじめに

安土城址を間近に望む「セミナリヨ跡公園」の最奥に、日本二十六聖人の一人である「聖パウロ三木」の顕彰碑があります。１９８１年に安土城築城400年祭が行われたのを機に、セミナリヨ創建400年を記念して建立されました。顕彰碑建立の式典当日は、バチカン大使をお招きし、また、長崎の日本二十六聖人記念館からは、聖パウロ三木の聖遺物であるご遺骨を当地に迎えて行われました。

しかしその顕彰碑も40年に及ぶ風雪に晒され浸食がすすみ、碑文も読みづらい状態にまで傷んでいました。

滋賀ブロックでは、行事のための委員会が置かれています。その一つとして「安土セミナリヨ記念ミサ実行委員会」があり、毎年の行事として「セミナリヨ跡公園」でのミサを、司教様をお招きして執り行ってきました。ところが新型コロナ感染症の蔓延に見舞われ、日頃の主日ミサも通常に実施できない状態となり、当然、「セミナリヨ記念ミサ」も実施を見送らねばならない状況となったわけです。「実行委員会」も休止の状態に追い込まれました。

そのような中、ミサが実施できないならば、何かこの間にできることがあるのではないかとの声があがりました。普段できていなかったことに取り組むことができる好機と捉えられるのではないかと、「気づき」が与えられたのです。

祝福除幕式

改修を終え新調された「顕彰碑」の祝福・除幕式は今年２月４日（土）、二十六聖人の祝日の前日、セミナリヨ跡公園で執り行われました。

当日はこの季節としては春を思わせるような好日で、風もなく、数日前に降り積もった雪の解け残る中、滋賀ブロックの６教会から２～３名ずつの代表が参集して、午前11時から開式となりました。

地元代表と信徒代表による除幕式の後、滋賀ブロックの小立花神父様とソ神父様の司式で「祝福式」が執り行われました。来賓には近江八幡市総合政策部文化振興課長や、地元の自治会の代表にもお越しいただきました。

顕彰碑改修の経緯

改修は業者を探すところからのスタートでした。公園内には記念となる「碑」が数か所設置されています。これらの碑を設置した業者なら、当然改修工事もスムーズに進展するのではないかと、地元の方や近江八幡市に問い合わせました。しかし、以前の設置業者が判明しないままで時間が経過していきました。

そんな折、彦根教会の司祭館の建設業者に問い合わせたところ、対処できることが判明し、相談のうえで依頼を進めることとしました。地元住民の皆様や近江八幡市のご理解を得るとともに、競争見積もりも取得して施工業者が決まり、工

事実施の運びとなりました。

ところが、施工業者より聖パウロ三木の肖像原画があるかとの問い合わせが舞い込みました。碑文は現物を確認して書き起こすことが可能だが、現状のものは傷みで「加工用の原稿」としては使えないとのこと。実行委員にも相談し、81年当時の原稿を探しました。委員の中には、顕彰碑を新設した折に関わられた方もおられ、手を尽くして探してくださいました。長浜教会からは、「ガラスに描かれた肖像画」があると連絡をいただきましたが、これも原稿としては使用できないことが分かって断念。ローマのイエズス会本部にあるレリーフから写したのではないかとのお話もあり、連絡を取ることを検討していました。

そのような中、長崎の日本二十六聖人記念館には彫刻家・舟越保武氏による二十六聖人の彫像とその原画もあると分かり、早速、記念館に電話で相談しました。著作権上の許可があれば、舟越氏の原画を使用できるのではとご案内いただきました。早速、権利者であるご遺族に手紙をお送りしました。舟越家ではこの件について親族会議まで開いてくださいましたが、彫刻家であるご長男様の「作品としての『彫刻』が、その原画とはいえレリーフとして使用されることは、同じ彫刻家として、恐らく父も賛同し難いのではないか」とのご回答がありました。芸術を志す方の生き方として、全く同感の意で、この件をあきらめました。

そんな折、委員会の苦慮をくみ取ってくださった施工業者から、「何とか復元できる」との連絡があり、欣喜したものです。これで、顕彰碑が改修できる。しかも、81年当時を再現して復刻できると。

安土に来られることがありましたら、ぜひセミナリヨ跡公園にお立ち寄りくださり、このような経緯で改修しました記念碑をご覧ください。

安土セミナリヨ記念ミサ実行委員会
彦根教会　中川通一

新しくなった記念碑です。
碑文の内容をご紹介するスペースがありませんので、ぜひ現地に行ってお読みください。

写真撮影・唐崎教会　今井章夫

過去の京都教区時報を振り返ってみました。

1981年8月1日発行の74号2ページに、「種は蒔かれたが―安土セミナリオ跡祝別」のタイトルの記事があります。

「5月31日、ガスパリ教皇大使、田中司教、古屋司教、安土町長出席のもと、二十六聖人記念館長結城了悟神父の『安土の屏風がローマへ行く』との講話、記念碑除幕式、ミサが行われた」という内容です。

また、2016年7月1日発行464号に「安土セミナリヨ公園記念ミサ」のタイトルの記事もあります。

「今年、近江八幡市によりセミナリヨ公園の改修も行われ、敷石やベンチも整備された。4月29日、滋賀ブロック主催にてミサが行われた。また、整備された公園を大塚司教に祝福していただいた」という内容です。

1580年にイエズス会宣教師オルガンチノによって建てられた日本最初のキリシタン神学校である安土セミナリヨの跡地が大切にされ、遠い時代に思いを馳せ、祈りを捧げることのできる場所であり続けますように。

広報委員会

こんにちは神父さん

頭島（かしらじま）　光（ひかる）神父

所属：レデンプトール修道会
生年：1955年
叙階：1987年

京都教区の信徒、司祭の皆様、こんにちは。私はトマス頭島光です。よろしくお願いいたします。

この４月から「京都北部ブロック担当司祭」として任命を受け、鹿児島教区より転居して参りました。所属はレデンプトール修道会で、司祭叙階36年になります。年齢は68歳。舞鶴修道院を拠点に、西と東の舞鶴教会、及び丹後教会から福知山教会、報恩寺聖堂を巡りながら、同僚の三輪神父様、アントニオ神父様と共に協働して、宣教司牧に専念していきます。

私の父は伝道師として、この丹後の地で長い間、レデンプトール会司祭たちと働きました。現在の丹後大宮礼拝堂が私の幼き頃からの聖堂で、友達からは「教会の子」と呼ばれていました。そんな自分が神父として働くなど考えてもみませんでした。今も戸惑いながら聖務に向かっていますが、ある種の疑念は尽きません。それは生まれた時から信者、いつのまにか信仰の人である、私の思い。つまり、どのようにキリストを伝えるか。なぜ今もなおイエスか。その答えを信仰の原点であるこの地で見つけ出すため、私はここに来たのか。信仰は、私にとってただただ神からの恵み。それなしに私はいない、それだけは明らかです。よろしくお願いいたします。

三輪（みわ）周平（しゅうへい）神父

所属：レデンプトール修道会
生年：1953年
叙階：2002年

この度の司祭人事異動で横浜教区から来ました、レデンプトール会の三輪周平です。よろしくお願いします。

京都教区で働くのは今回３度目で８年ぶりです。私は三重県の四日市教会出身で、同じ教区なので、親しみがあります。

以前いた長野県と同じく、京都北部の丹後地方も美しい自然に囲まれたところだと改めて感じました。奈具の海岸、由良川沿いや東舞鶴から見る舞鶴湾など、また夜に車で走ると野生の鹿に遭遇することもあります。

今まで車で一日100㎞以上の距離を走ったことはなかったのですが、今回の人事異動で長野県の諏訪から西舞鶴まで、360㎞の距離をやむなく走りました。今までそれほどではなかったのですが、それ以来教会を移動する時、車を運転することに楽しさを感じています。

今年70歳になりましたが、長く教会に奉仕ができることは心身ともに健康であるという思いです。私は何でも三日坊主ですが、健康を考えて、また気分転換のため今までできなかった散歩に挑戦したいと思います。

新しい仕事は広範囲な仕事場ですが、「私のくびきは負いやすく、私の荷は軽い」と言われたキリストを裏切らないように、「やさしいキリスト」を伝える司牧者を目指したいと思います。

トマのつぶやき

災いが起こるとお祭りをした

疫病や飢饉、災害が起こると、昔の人は神輿をかついでお祭りをした。断食や祈祷や施しをし、立派な寺院を建てて、神の怒りを鎮めようとした。そして罪を悔い改めるだけでなく、生き方そのものを改めようとした。神様は怒らない。むしろ私たち以上に、子どもたちの苦しみに心痛めておられる。

神輿をかついでお慰めする。その時、人は「自我」から解放されている。祈る。意に乗る。神の意に乗る。神様と私の「わ（和、輪）」の中で、人々が舞う（pray）。人々が遊ぶ（play）。人々が祈る（pray）。私たちは一つ（コンムニオン）になる。

祝うという言葉は、寿ぐ（言祝う・ことほぐ）という。祝詞（寿ぐことば）を述べて、神をまつる。今年も祇園祭が祝われる。

村上透磨

2月18日に帰天された村上透磨神父は、病院のベッドの上で、「トマのつぶやき」の原稿を書いてくださっていました。遺稿を掲載します。

広報委員会

大掃除企画報告

3月12日（日）青年センターにて、みんなで大掃除をしました。青年が10人ほど集まり、音楽をかけながら、みんなでおしゃべりをして楽しく整理しました。

数年前のポスターや懐かしい写真などもたくさん出てきて、皆さんが楽しく懐かしそうにお話をしていました。

京都教区から離れる方もいて、その方のお別れ会も兼ねていました。

みんなで楽しく大掃除ができてすごく良かったです。

長浜教会　菊川マリア

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。
右記のＱＲコードからも確認できます。

お　知　ら　せ

教　　区

正義と平和協議会
第16回　戦争と平和写真展
「沖縄・水俣・フクシマ」
日　時：８月５日㊏ 15:00～20:00
８月６日㊐ ７:00～15:00
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール
入場無料　問合せ：075(366)6609㊊㊋㊍

聖書委員会
オンライン聖書講座
ともに歩んでくださる神
―シノダリティの心をもとめて―
第５回「主に呼ばれて、神の命に触れる」
７月６日から３か月配信
講師：英隆一朗神父(イエズス会)
第６回「死と復活を証しする」
７月20日から３か月配信
講師：中川博道神父(カルメル修道会)
要申込、有料
ＱＲコードより詳細をご覧ください

広報委員会
Fax：075-366-6679
メール：honbu@kyoto.catholic.jp
教区時報９月号の原稿締切日は７月24日㊊です。

ブロック

奈良ブロック
2023年度聖書講座(対面講座)
ともに歩む教会～マタイ福音書による～
われらと共にいる神(インマヌエル)
第４回「世の終わりまで、あなた方と共にいる神」
日時：７月１日㊏ 10:30～12:00
場所：大和八木教会
講師：大塚 喜直司教(京都司教区)
会費：1,000円受付にて
信者でない方、学生は無料
問合せ：090-4485-9968 シスター服部
(電話時間は必ず19:00～21:00)

諸　団　体

京都カトリック混声合唱団
祈りと聖歌の集い　７月９日㊐ 14:00
河原町教会聖堂　一般の方も参加自由
問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)
練習　７月13日㊍ 10:00　27日㊍ 10:00
河原町教会２階楽廊
８月の練習はお休み
問合せ：075-701-3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ
手話表現学習会(聖書と典礼)
日　時：７月18日㊋ 13:00～15:00
場　所：希望の家地域福祉センター
京都市南区東九条東岩本町31-10
問合せ：Tel・Fax：075-723-1135　傳 裕子

心のともしび
ラジオ番組案内（全国34局で放送）
ＫＢＳ京都　㊊～㊏ 朝５:55
㊏ 朝５:15
ラジオ関西　㊊～㊏ 朝５:00
㊐ 朝６:05
毎日放送　㊊～㊏ 朝５:45
㊏ 朝４:55
７月のテーマ「ひらめき」

点訳版「京都教区時報」〈無料〉をご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』笠松幸彦さんまでお申込みください。
Tel・Fax/072-722-0271